

我が街の記念碑

米軍大和基地の碑

西武拝島線 玉川上水駅 徒歩1分



北口の駅前広場に移設された石碑

【村山大和・建設機械運転・進藤藤男通信員】東大和市は、面積13・42kmと小さな自治体です。北側には多摩湖の水がめがあり風光明媚なところ

あかあ!

のたみなす (412)

おかえり... あらーなにそれ?

アイツは自動車が好きたから... 乗って遊べるようにして

どうだ マサル! うん... ありがとう

DVDもって見せて見せて

興味がある 電車で移動してみたい



家族くつろぎ学生走る広場 忘れられた基地の跡

度重なる空襲で111人の犠牲者と工場のほとんどが破壊されました。戦後、賠償工場となりながらも残された工場3割で、平和産業として操業。戦後混乱期の47年に瓦礫地、山林あわせ0・72km²が西武鉄道に売却されて、3年後には工場引き込み線から小川、玉川上水間に鉄道が敷き、玉川上水は1等地になりました。

翌51年、西武鉄道所有地が立川基地の一環として国に調達されること。当時の中学校は軍需工場の青年学校の跡

にあつて、基地予定地に近いこともあり、地域住民の反対運動となりました。西武鉄道も値段が折り合わず、53年に戦後初めての強制収容。その後、日米安保協議で全国の基地整理が決まり、大和基地も返還が決定、77年に全面返還となりました。

市の1等地の跡地をめぐり東京都、東大和市、西武鉄道で三つ巴の争奪戦がありました。当時私も下水道敷設工事に従事、まだ建物がありました。地域の子供さん達は、フェンスの隙間から出入りし探検ごっこをしていた様です。

今は都立東大和南公園となつた広場で家族がくつろぎ、学生はグラウンドを走って平和な光景です。玉川上水駅北口に基地入口に掲げられていた石碑がひっそりとあります。2度と再び争いのない世界をのぞみます。

忘れえぬこと

10年目で任された

和室の造作に手が震え

大工 藤川善清



秋田県角館の町で生まれ育ち、中学入学と同時に家族で上京。中学を卒業する頃には既に大工の見習いとして親方（江戸川区で工務店を営んでいる伯父）のところへ出入りしていました。大工の見習いとはいつても最初の1、2年

は材料運びや掃除ばかりで、大工道具を使えるようになったのは、ようやく3年目ぐらいからでした。少し仕事に慣れたころにはノミで大怪我をしたこともありました。10年がたち、真壁の和室の造作をやってみると言われ、親方がやる仕事を自分が初めて任されたという思いで手が震えました。時間を気にしなくともいいからとにかく綺麗に仕上げようと、腕をこらして仕上げたところ、真剣に自分と向き合いました。

翌年、お茶の二服の時に親方から独立してみるかと言われ、掛けられました。一職人として認められた嬉しさ、その反面一人独立して責任を負うプレッシャーで複雑な気持ちでした。33歳で結婚をし、会社を設立。組合をはじめ、町会、お祭り、地域の色々な人達とお付き合いに恵まれ、地元での仕事や地域ボランティア活動をさせて頂いております。大工仕事は大規模なものから小規模なものまで様々ですが、仕事を頼まれて一番嬉しいのはご近所の方からお願ひされた時です。工務店として地域で信頼されることを目標に、丁寧な対応を心掛けたいと思っています。

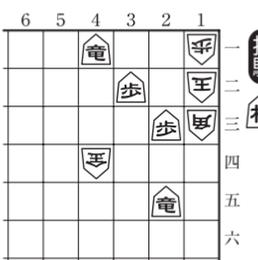
先祖父代々からの大工職を受け継ぎ、自分を生かしてくれたいと、大工の仕事に就けたことに感謝しています。(墨田)

断る女

菅首相の長男が勤める放送事業会社「東北新社」か

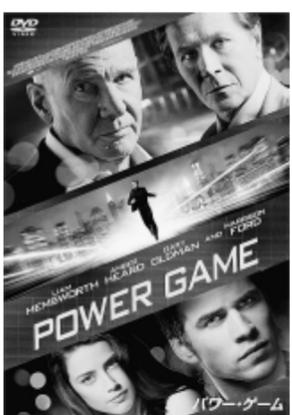
ら7万円超の会食接待を受け、今月1日に辞職に追い込まれた山田真貴子内閣広報官。彼女は昨年、若者に「飲み会を絶対に断らない女としてやってきた」と振り返っていた。この件に関して、テレビ番組の中でタレントの壇蜜は、「私は飲み会を絶対に断る女です。絶対行きませぬ。友達とかいらない」とコメントした。

詰将棋



チョット一服(1032)

ガラケーからスマホに切り替えた時に、スマホでは電話の通話がオプションになると言われ、5分間の無料通話プランを選んだが、最近になって、0570で始まるナビダイヤルはこの無料通話の範囲外だということを知った。スマホの料金プランを提示



パワー・ゲーム

監督 ロバート・ルケティック

刑務所に行くか、スパイになるか

「通信を制すものは世界を制す」とばかりに、総務省の利権をめぐる汚職問題が騒がしい。年明けにソフトバンクの元エンジニアが、最新の5Gネットワークに関する営業秘密を不正に持ち出し、ライバルの楽天モバイルに転職して逮捕された事件も記憶に新しい。これらを踏まえて本作を観ると、よりリアルな緊迫感を楽しめるはず。

DVD ブルーレイ



「言い訳はしない。自業自得だ」というセリフとともに、暗闇の路地裏を男が逃げていくシーンから始まる「パワー・ゲーム」は、2013年製作の米映画。ベストセラー小説「侵入社員」(ジョセフ・フィンガー)をもとに、ロバート・ルケティック監督が映画化。巨大企業のカリスマ権力者同士の争いに巻き込まれた若手社員の運命を描いたサスペンスドラマだ。病気の父親とブルックリンで二人暮らしをするアダムは、急成長を遂げるIT企業ワイアット社の社員。ある日突然、不当な理由で解雇を言い渡されたアダムは、会社の資金を流用しパティーを開く。これがCEOのワイアットにばれて、次の2択を迫られる。刑